

新春のおよろこびとともに、今年からのAMD Aの新基軸について紹介したい。「AMD A合同医療ミッション」構想である。

平和への信頼醸成を目的に、AMD Aが国内外の大学や医療機関と合同で医療ミッションを派遣する。原則として「相互扶助」の概念を導入している。難民や災害被災者救援を目的とするAMD A多国籍医師団の活動と比べれば、平時の計画的な医療活動である。

ミッションには、「世界遺産と子どもの命」プログラムがある。子供の役に立つプログラムである。世界遺産は残した民族への尊敬の念を生む。

尊敬は平和への相互理解の第一歩。尊敬のない支援は「援助を受ける側にもプライドがある」というAMD A人道援助三原ルの医療の恩恵を受けら

則に反する。

協力して手術を行う現地
の大学・医療機関とAMD A支部とは、災害発生時に「相互扶助」の関係を持つ。「困ったときはお互い様」の繰り返しにより、平和への信頼関係を確立することができ

る。「子どもの命」とは、結婚や就職の障害となる口唇裂・口蓋裂等の手術による社会的な生命の復活のことだ。手術の恩恵を受けた子供たちには社会へのお返しを期待したい。子供たちの「相互扶助」の始まりである。将来、その子供たちが医療従事者への道を選べば、「す

がなみ奨学金」の対象者になるかもしれない。AMD Aの国際相互扶助ネットワークに参加してもらえば、このうえない喜びである。

日本人の平均寿命は世界一だ。女性が86歳で男性が79歳。いつでも、どこでも、誰でも同じレベルの医療の恩恵を受けら

「AMD A合同医療ミッション」構想

れる国は日本だけである。昭和31年に国民皆保険が発足したおかげである。北欧諸国や英国の医療システムは建前上、完璧だが、それゆえに余裕がない。疾患によっては数カ月の手術待ちは当たり前である。

国民皆保険が整備されていない国の人たちはもっと可哀そうだ。病気になるればお金がかかる。お金がなければ医療の恩恵を受けられない。「地獄の沙汰も金次第」とは、このことである。従って、死ぬことはないが過酷な人生を送る疾患を甘んじて受ける人たちがたくさんいる。特に子供の時に手術を受けることにより、その後の人生が劇的に変われば奇跡である。

AMD Aはアジア各国を中心に「相互扶助」で繋がる国際医療ネットワークを構築し、災害被災地に多国籍医師団を迅速に派遣することに威力を発揮してきた。そして、

このことである。従って、死ぬことはないが過酷な人生を送る疾患を甘んじて受ける人たちがたくさんいる。特に子供の時に手術を受けることにより、その後の人生が劇的に変われば奇跡である。AMD Aはアジア各国を中心に「相互扶助」で繋がる国際医療ネットワークを構築し、災害被災地に多国籍医師団を迅速に派遣することに威力を発揮してきた。そして、

このことである。従って、死ぬことはないが過酷な人生を送る疾患を甘んじて受ける人たちがたくさんいる。特に子供の時に手術を受けることにより、その後の人生が劇的に変われば奇跡である。AMD Aはアジア各国を中心に「相互扶助」で繋がる国際医療ネットワークを構築し、災害被災地に多国籍医師団を迅速に派遣することに威力を発揮してきた。そして、

だければ幸いである。(AMD Aグループ代表)